

令和4年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

令和3年11月11日

上場会社名 中日本興業株式会社 上場取引所 名  
 コード番号 9643 URL http://www.nakanihonkogyo.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)服部 徹  
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員 感動創造支援本部副本部長 (氏名)加藤 康章 (TEL) (052)551-0274  
 四半期報告書提出予定日 令和3年11月12日 配当支払開始予定日 令和3年12月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和4年3月期第2四半期の業績（令和3年4月1日～令和3年9月30日）

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
4年3月期第2四半期	1,311	119.7	△154	—	△110	—	△84	—
3年3月期第2四半期	596	△73.1	△305	—	△255	—	△260	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
4年3月期第2四半期	△159.33	—
3年3月期第2四半期	△490.16	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
4年3月期第2四半期	4,262	3,405	79.9
3年3月期	4,349	3,525	81.1

(参考) 自己資本 4年3月期第2四半期 3,405百万円 3年3月期 3,525百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
3年3月期	—	20.00	—	30.00	50.00
4年3月期	—	30.00	—	—	—
4年3月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和4年3月期の業績予想（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,800	42.7	△220	—	△120	—	△90	—	△169.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	4年3月期2Q	540,000株	3年3月期	540,000株
② 期末自己株式数	4年3月期2Q	9,247株	3年3月期	9,226株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	4年3月期2Q	530,771株	3年3月期2Q	530,774株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルスの変異株の流行により、ほとんどの期間で「緊急事態宣言」等が発出されており、引続き行動の自粛を求められるなど、個人消費や企業活動に影響がおよび、大変厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと当社では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を予防するため、引続きマスクの着用、アルコール消毒液の設置、サーモグラフィーによるお客様の体温の確認、施設内の換気などの徹底した対策を施すことで、お客様が安心してご利用いただける環境を提供してまいりました。

その結果、売上高は13億11百万円（前年同期比119.7%増）、営業損失は1億54百万円（前年同期は営業損失3億5百万円）、経常損失は1億10百万円（前年同期は経常損失2億55百万円）、四半期純損失は84百万円（前年同期は四半期純損失2億60百万円）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という）等の適用により、売上高は3,062千円減少し、営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失はそれぞれ3,062千円増加しております。

以下、事業別の概況をご報告申し上げます。

#### 【シネマ事業】

シネマ事業においては、同感染症拡大の影響で、政府、自治体および関係団体からの感染予防対策のガイドラインに従い、営業時間の短縮、販売座席数の制限を設けて営業を行ってまいりました。

洋画の大作が公開延期されるなど、邦画・アニメ中心の興行となり、全体としては大変厳しい成績でした。

当上半期の主な上映作品としまして、邦画では、4月・6月公開「るろうに剣心」2部作、7月公開「東京リベンジャーズ」、9月公開の「マスカレード・ナイト」、洋画では、7月公開「ゴジラvsコング」、「ブラック・ウィドウ」、「ジャングル・クルーズ」、8月公開の「ワイルドスピード/ジェットブレイク」、アニメでは、4月公開「名探偵コナン 緋色の弾丸」、6月公開「機動戦士ガンダム 閃光のハサウェイ」、7月公開「竜とそばかすの姫」、8月公開の「僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ワールド ヒーローズ ミッション」、ODS（映画以外のデジタルコンテンツ）では、4月公開「あんさんぶるスターズ! DREAM LIVE - 5th Tour Star Gazer」、8月公開の「うたの☆プリンスさまっ♪『SHINING STAR STAGE』- LOVE in DREAM -」などの番組を編成いたしました。

その他に、お客様参加型のトークイベント付上映会の実施や、映画のサブスクリプション型のサービスに参加するなど、映画文化のすそ野を広げる活動を始め、8月からはアイドルのライブイベントに加えて、お笑いライブ「よしもと名駅四丁目ライブ」もスタートさせ、バラエティに富んだラインナップを揃えてまいりました。

また、飲食部門の名古屋市千種区の「覚王山カフェJi.Coo.」、名古屋市千種区の「LA BOBINE ガレットカフェ」では、健康に留意したメニューの追求をするとともに、ゆっくりとお寛ぎいただける空間の創造に努めてまいりました。

その結果、当事業では売上高は12億1百万円（前年同期比130.0%増）、セグメント損失は1億35百万円（前年同期はセグメント損失2億70百万円）となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は3,062千円減少し、セグメント損失は3,062千円増加しております。

また、「LA BOBINE ガレットカフェ」は8月末にて営業を終了し、改装工事の後10月1日より「ミッドランドシネマ ドーナツ ファクトリー」としてドーナツを提供する店舗へ移行いたしました。併せて映画館においても同店のドーナツを販売をするなど、営業の強化を図っております。

#### 【アド事業】

アド事業においては、緊急事態宣言の発令に伴い、イベント等が中止となり地元を中心に受注が減少し、コインパーキング事業に関しても新規案件が減り低迷いたしました。しかし、映画関連については邦画を中心に復調の兆しが見えました。

その結果、当事業では売上高は1億9百万円（前年同期比47.4%増）、営業損失は18百万円（前年同期は営業損失35百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末の総資産は42億62百万円となり、前事業年度末に比べ86百万円の減少となりました。主な要因は、流動資産の減少72百万円となっております。

負債合計は、8億57百万円となり、前事業年度末に比べ33百万円の増加となりました。主な要因は、流動負債の増加58百万円となっております。

純資産は34億5百万円となり、前事業年度末に比べ1億20百万円の減少となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、令和3年5月13日に公表しました業績予想を修正いたしております。詳細につきましては、本日別途開示する「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当第2四半期会計期間 (令和3年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	566,904	591,441
受取手形及び売掛金	183,237	142,256
有価証券	300,000	300,000
商品及び製品	4,724	5,590
原材料及び貯蔵品	2,948	5,735
前払費用	30,901	31,732
預け金	42,388	27,300
未収還付法人税等	16,135	—
その他	47,741	18,675
流動資産合計	1,194,981	1,122,732
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,020,463	972,502
構築物（純額）	1,064	915
機械装置及び運搬具（純額）	59,768	48,502
工具、器具及び備品（純額）	93,936	105,970
土地	695,913	695,913
有形固定資産合計	1,871,147	1,823,804
無形固定資産		
電話加入権	1,147	1,147
ソフトウェア	50,341	47,605
その他	236	—
無形固定資産合計	51,725	48,752
投資その他の資産		
投資有価証券	577,854	580,997
関係会社株式	10,000	10,000
差入保証金	554,255	553,516
長期前払費用	36,474	35,310
繰延税金資産	52,708	87,849
投資その他の資産合計	1,231,291	1,267,673
固定資産合計	3,154,164	3,140,230
資産合計	4,349,145	4,262,963

(単位：千円)

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当第2四半期会計期間 (令和3年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	245,605	234,588
リース債務	45,904	42,226
契約負債	—	34,524
未払金	2,650	14,992
未払法人税等	—	5,040
未払費用	85,989	90,769
従業員預り金	3,767	4,097
賞与引当金	17,290	17,730
その他	34,821	50,522
流動負債合計	436,027	494,492
固定負債		
リース債務	89,716	71,922
退職給付引当金	67,747	70,484
長期未払金	25,200	21,500
資産除去債務	85,592	86,311
受入保証金	118,896	112,440
固定負債合計	387,152	362,659
負債合計	823,179	857,151
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	270,000	270,000
資本剰余金		
資本準備金	13	13
資本剰余金合計	13	13
利益剰余金		
利益準備金	67,500	67,500
その他利益剰余金		
配当準備積立金	192,016	176,093
別途積立金	2,380,000	2,380,000
繰越利益剰余金	483,003	376,576
利益剰余金合計	3,122,520	3,000,170
自己株式	△70,406	△70,616
株主資本合計	3,322,127	3,199,567
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	203,838	206,243
評価・換算差額等合計	203,838	206,243
純資産合計	3,525,966	3,405,811
負債純資産合計	4,349,145	4,262,963

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)
売上高	596,882	1,311,412
売上原価	292,200	697,240
売上総利益	304,681	614,172
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	12,301	14,750
人件費	222,869	261,900
賞与引当金繰入額	17,750	17,730
退職給付費用	4,155	2,737
減価償却費	71,907	88,416
地代家賃	149,785	202,538
水道光熱費	24,984	30,293
修繕費	7,694	3,631
その他	98,886	146,206
販売費及び一般管理費合計	610,335	768,205
営業損失(△)	△305,654	△154,032
営業外収益		
受取利息	1,668	1,660
受取配当金	3,967	3,989
協賛金収入	5,600	-
助成金収入	39,482	38,311
その他	733	1,001
営業外収益合計	51,451	44,963
営業外費用		
その他	1,142	1,035
営業外費用合計	1,142	1,035
経常損失(△)	△255,345	△110,105
特別損失		
臨時休業等による損失	83,716	-
固定資産売却損	-	84
固定資産除却損	-	400
特別損失合計	83,716	484
税引前四半期純損失(△)	△339,061	△110,589
法人税等	△78,895	△26,022
四半期純損失(△)	△260,165	△84,567

### (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

収益認識会計基準等を第1四半期会計期間から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当社の映画館で提供しておりますポイント制度について、従来は、将来にポイントとの交換に要すると見込まれる直接的費用が発生しないため、会計処理を行っておりませんでした。当該ポイントが重要な権利を顧客に提供する場合、履行義務として識別し、収益の計上を繰り延べる方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は3,062千円減少し、営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失はそれぞれ3,062千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は21,859千円減少しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期累計期間(自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益計算書計上額
	シネマ	アド	計		
売上高					
外部顧客への売上高	522,433	74,449	596,882	—	596,882
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	522,433	74,449	596,882	—	596,882
セグメント損失(△)	△270,058	△35,595	△305,654	—	△305,654

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益計算書計上額
	シネマ	アド	計		
売上高					
映画館関連	1,122,583	—	1,122,583	—	1,122,583
飲食店関連	40,046	—	40,046	—	40,046
不動産賃貸関連	39,064	—	39,064	—	39,064
看板製作及び広告関連	—	109,718	109,718	—	109,718
顧客との契約から生じる収益	1,201,694	109,718	1,311,412	—	1,311,412
外部顧客への売上高	1,201,694	109,718	1,311,412	—	1,311,412
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,201,694	109,718	1,311,412	—	1,311,412
セグメント損失(△)	△135,657	△18,374	△154,032	—	△154,032

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期会計期間の期首から収益認識会期基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期累計期間の「シネマ」の売上高は3,062千円減少し、セグメント損失は3,062千円増加しております。